


事業名	チャレンジ青年学級（チャレンジ学級）				
予算	歳入予算（円）	歳入実績（円）	歳出予算（円）	歳出実績（円）	
令和2年度			報償費1158,000 需用費33,000 委託料91,000 使用料及び賃借料60,000	報償費66,200 需用費32,597 委託料0 使用料及び賃借料0	
令和3年度			報償費852,000 需用費65,000 委託料91,000 使用料及び賃借料60,000	報償費174,900 需用費64,357 委託料0 使用料及び賃借料0	
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則			
	市の基本計画	▼狛江市前期基本計画 まちの姿5「いつまでも健やかに暮らせるまち」 施策5-④「障がい者への支援」方向性3「社会参加・就労の促進」 まちの姿6「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-①「地域における学びの充実」方向性1「学びの環境づくり」 ▼第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針（3）教育環境の整備 ③個に応じた教育の実現に向けた環境整備 基本方針（4）生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり			
事業目的	障がい者の学習・文化・コミュニケーション活動の推進	持続可能な開発目標（SDGs）			
事業内容	開催頻度	毎月第1、第3の日曜日 午前10時～午後4時 年間17回（内在宅活動5回）			
	新規・継続	継続	実施主体	市	
	実施対象	市内在住・在勤の義務教育修了の障がいのある方で、通級可能で団体活動のできる方		参加者数	延137人
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由		評価	
	＜周知＞ 市民に周知されているか	広報こまえへの掲載による周知を行っている。参加者増には繋がっていないが、問い合わせ自体は毎年2・3件あるため、周知はされていると考えられる。これまでの学級生については、年度初めに自宅へ案内を送っている。		公民館 B	公運審 B
				全体 B	
	＜環境＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	講師（体操・音楽・工作）に事業担当が補助をしている。体操の中での多摩川ウォーキングではボランティアの方が参加者見守り、講師の指導補助を行った。用具は学級生と共に消毒している。新型コロナウイルス感染症の新規感染者が多くなった際は、公民館活動を在宅活動に切り替えた。		公民館 A	公運審 A
				全体 A	
	＜満足度＞ 参加者にとって満足の内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	学級生から次回の活動日を確認されることも多く、作業所通所等以外の活動の場が少ないこともあり、学級生の親からも活動を続けてほしいと言われているため、一定数のニーズはあると考えられる。		公民館 B	公運審 B
				全体 B	
＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	一日の活動を振り返る際に、「今日は●●をしました」と話し、「全員が達成した」形で終了できている。現在は特別支援学校の様子を参考にしたり、過去の活動を元に課題を探したりして、そのレベルの調整をし、活動が楽しいものになるよう努めている。		公民館 B	公運審 B	
			全体 B		
＜居場所＞ 参加者の居場所と成り得るか	▼喜んでいる、楽しみにしているとは口に出さないし態度でも分かりにくい、活動予定表を見ている、次回の開催日を確認してくるという行動から、また参加したいのだろうと考えられる。 ▼特段学級生同士で仲良くしている様子はないが、欠席者を気に掛ける行動も見られるので、仲間意識はあると思われる。		公民館 A	公運審 A	
			全体 A		
今後の課題	▼他市との情報共有（都公連障がい者青年学級担当者会等）を図り、職員の知識やノウハウの向上を図るとともに、学級の対象者の範囲やカリキュラムについて、見直しを図る。 ▼生徒数の高齢者が占める割合が高いため、新規の方に参加してもらえるような周知・PRを図る。 加えて、学級コースや活動時間を分ける等、新規の方が参加しやすい環境づくりを検討する。 ▼「出席率」や「新規学級生数」等、評価の基準となる目標値を定める。				
総合評価	▼市内には、作業所のような障がい者向け施設は多く存在するが、本学級のように、余暇やレクリエーションを生涯学習として無償で楽しめるのは公民館ならではの経験・体験ができる場をこれからも提供し続け、家庭・作業所とは異なる障がい者のサードプレイスとなるよう空間づくりに努めていただきたい。				